

定期作況報告

(第6号 平成29年10月20日現在)

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 上川農業試験場

1. 気象概況

9月下旬：平年に比べて、平均気温は0.5℃低く、降水量は6.4mm多く、日照時間は3.7時間多かった。

10月上旬：平年に比べて、平均気温は0.8℃高く、降水量は21.1mm少なく、日照時間10.9時間少なかった。

10月中旬：平年に比べて、平均気温は3.2℃低く、降水量は3.9mm少なく、日照時間は5.6時間少なかった。

9月下旬から10月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象表

調査項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温(℃)	13.1	13.6	▲0.5	11.9	11.1	0.8	5.6	8.8	▲3.2	10.2	11.2	▲1.0
最高気温(℃)	19.6	19.8	▲0.2	16.6	16.9	▲0.3	10.4	14.5	▲4.1	15.5	17.1	▲1.6
最低気温(℃)	6.9	8.2	▲1.3	7.0	6.0	1.0	1.8	3.8	▲2.0	5.2	6.0	▲0.8
降水量(mm)	46.0	39.6	6.4	17.0	38.1	▲21.1	30.5	34.4	▲3.9	93.5	112.1	▲18.6
降水日数(日)	8.0	4.5	3.5	5.0	5.6	▲0.6	5.0	6.1	▲1.1	18.0	16.0	2.0
日照時間(hr)	54.6	50.9	3.7	34.8	45.7	▲10.9	33.0	38.6	▲5.6	122.4	135.2	▲12.8

注 1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稲 良

5月20日現在：平年並

事由：播種は平年並の4月14日に行った。育苗期間中の天候は4月中旬、気温は平年より高かったが日照時間は平年より少なく経過し、出芽はやや遅れ揃いも劣った。4月下旬は日照時間が平年並であったが、気温は平年より低く経過し、苗の生育は遅延した。5月上旬の平均気温は平年並で日照時間が多く、中旬は高温・多照に経過し苗の生育は回復傾向となった。移植は平年より1日早い5月18日に行った。移植時の草丈は平年より2.0～2.3cm低く、第1葉鞘高はほぼ平年並であった。主稈葉数は平年並で、茎数も平年並であった。地上部乾物重は平年より0.06～0.28g軽かったが、苗の充実度を現す地上部乾物重/草丈はほぼ平年並であった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

6月20日現在：やや不良

事由：5月下旬の高温により活着は良好で生育も順調であったが、6月上旬の低温・日照不足と6月中旬の低温により生育は停滞し葉先枯れもみられた。6月20日現在、主稈葉数は平年並であるが、草丈は平年より3.8～4.5cm低く、 m^2 あたり茎数は平年より24～32%少ない。

これらのことから、目下の作況は「やや不良」である。

7月20日現在：平年並

事由：6月下旬は低温・日照不足となり生育は遅れ、幼穂形成期は平年より2～3日遅れたが、7月上～中旬の高温により生育は回復し、止葉期は平年より1～2日早かった。7月20日現在の草丈は平年並からやや高く、葉数と m^2 あたり茎数は平年並からやや多いが、分けつの生育が遅れているため、出穂期は平年よりやや遅れている。

これらのことから目下の作況は「平年並」である。

8月20日現在：やや良

事由：出穂期は平年より1～3日遅れ、穂揃い日数は3日長かった。7月下旬は平均気温が平年並で日照時間は平年より多く登熟は平年並に進んだものの、8月上、中旬には低温により登熟がやや緩慢となった。稈長、穂長は平年より長く、 m^2 あたり穂数は平年より47～66本多い。

これらのことから目下の作況は「やや良」である。

9月20日現在：やや良

事由：8月下旬は平均気温がやや低く、日照時間も少なかったため、登熟はやや緩慢となった。9月上旬は平均気温が低かったものの日照時間が多く、登熟はほぼ平年並に進んだ。成熟期は平年より「ななつぼし」が1日、「ゆめぴりか」が3日各々遅かった。登熟日数はほぼ平年並であった。稔実歩合は平年より0.9～1.1%高く、一穂粒数は4～5%、 m^2 あたり稔実粒数は13～16%各々平年より多かった。登熟歩合はほぼ平年並であった。

これらのことから、目下の作況は「やや良」である。

10月20日現在：良

事由：籾摺歩合は平年より0.7～2.6%高く、玄米千粒重も平年より0.2～0.6g重かった。登熟歩合はほぼ平年並で、 m^2 当たり稔実籾数が平年より多かったことから、精玄米重は「ななつぼし」が759kg/10a、「ゆめぴりか」が725kg/10aで各々平年比112、111%で平年より多収であった。なお、玄米品質は腹白等の発生が多く、検査等級の低下が懸念される。

これらのことから、目下の作況は「良」である。

表2 10月20日の水稻の生育

項目	品種名 /年次	ななつぼし			ゆめぴりか		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
生育期節	播種期 (月日)	4.14	4.14	0	4.14	4.14	0
	移植期 (月日)	5.18	5.19	△ 1	5.18	5.19	△ 1
	幼穂形成期 (月日)	6.25	6.23	2	6.27	6.24	3
	止葉期 (月日)	7.08	7.10	△ 2	7.09	7.10	△ 1
	出穂期 (月日)	7.22	7.21	1	7.23	7.20	3
	成熟期 (月日)	9.11	9.10	1	9.11	9.08	3
	穂揃日数 (日)	11	8	3	11	8	3
	登熟日数 (日)	51	50	1	50	50	0
	生育日数 (日)	150	148	2	150	147	3
移植時	草丈 (cm)	11.2	13.2	▲ 2.0	10.9	13.2	▲ 2.3
	葉数 (枚)	4.0	4.0	0.0	4.1	4.1	0.0
	茎数 (本)	1.8	1.7	0.1	1.8	2.0	▲ 0.2
	第1葉鞘高 (cm)	2.3	2.5	▲ 0.2	2.3	2.5	▲ 0.2
	地上部乾物重 (g/100本)	4.17	4.23	▲ 0.06	4.04	4.32	▲ 0.28
	地上部乾物重/草丈	0.37	0.32	0.05	0.37	0.33	0.04
	葉数 (枚)	6月20日 7月20日 止葉葉数	8.1 10.3 10.3	8.1 10.2 10.2	0.0 0.1 0.1	8.4 10.9 10.9	8.4 10.5 10.5
茎数 (本/ m^2)	6月20日 7月20日	445 773	583 749	▲ 138 24	450 856	662 856	▲ 212 0
草丈 (cm)	6月20日 7月20日	34.8 82.6	38.6 79.9	▲ 3.8 2.7	32.9 83.6	37.4 79.3	▲ 4.5 4.3
成熟期	稈長 (cm)	72.6	68.1	4.5	68.7	65.5	3.2
	穂長 (cm)	17.6	16.5	1.1	17.2	16.7	0.5
	穂数 (本/ m^2)	754	688	66	837	790	47
収量構成要素	一穂籾数 (粒)	52.8	50.5	2.3	45.7	43.4	2.3
	m^2 当たり籾数 (×千)	39.8	34.8	5.0	38.3	34.2	4.1
	稔実歩合 (%)	96.3	95.4	0.9	94.9	93.8	1.1
	m^2 当たり稔実籾数 (×千)	38.3	33.1	5.2	36.3	32.0	4.3
	同上比 (%)	116	100	16	113	100	13
	登熟歩合 (%)	86.0	87.5	▲ 1.5	85.0	84.5	0.5
	籾摺歩合 (%)	81.7	81.0	0.7	81.6	79.0	2.6
	屑米歩合 (%)	2.7	2.4	0.3	1.9	3.4	▲ 1.5
収量	精玄米千粒重 (g)	22.6	22.4	0.2	23.5	22.9	0.6
	藁重 (kg/10a)	699	635	64	696	607	89
	精籾重 (kg/10a)	932	839	93	892	824	68
	精玄米重 (kg/10a)	759	679	80	725	651	74
	収量平年比 (%)	112	100	12	111	100	11
検査等級 (等)		1下	-		1下	-	

注 1) 平年値は前7カ年の中、平成23年(最凶年)、平成26年(最豊年)を除く5カ年の平均値。

2) △は平年に比べ「早」、▲は平年に比べ「減」を示す。

3) 苗代耕種概要 育苗様式：成苗ポット苗

施肥量：成分量で m^2 あたり、床土 N 3.0g, P_2O_5 7.2g, K_2O 3.0g

置床 N 27.0g, P_2O_5 34.0g, K_2O 18.0g

4) 本田耕種概要 栽植密度：25.3株/ m^2 (33.0cm×12.0cm)、3本植

施肥量：成分量で10aあたり、N 8.0kg, P_2O_5 9.7kg, K_2O 6.9kg, 堆肥1,000kg

5) 精玄米千粒重・精玄米重：網目1.90mm以上、水分15%換算

2) 秋まき小麦 (H29年播種) 不良

9月20日現在：

9月中旬に降雨が続き、9月20日現在播種は行っていない。

10月20日現在：不良

事由：播種期および出芽期は平年よりかなり遅くなった。気温は平年並に推移しているが、出芽期の遅れにより、草丈はかなり小さく、葉数および茎数はかなり少なく、生育は遅れている。

したがって、目下の作況は不良である。

表3 10月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名		きたほなみ		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
播種期 (月.日)		9.25	9.15	10
出芽期 (月.日)		10.05	9.24	11
出穂期 (月.日)			6.05	
成熟期 (月.日)			7.19	
越冬茎歩合 (%)			129.1	
雪腐病発病度			10.0	
葉数(枚)	平29年10月20日	2.0	4.4	▲ 2.4
草丈 (cm)	平29年10月20日	9.7	18.8	▲ 9.1
	平30年 5月20日		38.3	
	平30年 6月20日		86.2	
茎数 (本/m ²)	平29年10月20日	251	872	▲ 621
	平30年 5月20日		1474	
	平30年 6月20日		712	
成熟期	稈長 (cm)		77	
	穂長 (cm)		8.6	
	穂数(本/m ²)		658	
子実重 (kg/10a)			681	
同上平年比 (%)			100	
リットル重 (g)			811	
千粒重 (g)			39.5	
検査等級 (等)			2上	-

注 平年値は、前7か年中、平成27年、29年（収穫年度）を除く5か年の平均値。

3) 大豆 やや良

5月20日現在

事由：播種は、平年より3日早い5月18日に行った。

6月20日現在：平年並

事由：播種後の5月下旬は降水量がやや多く、やや高温で推移した。出芽期は平年より3日早かった。出芽後の6月上中旬の気温がやや低温で推移したため、主茎節数はやや少ないが、主茎長は平年並である。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：やや不良

事由：6月はやや低温で推移したが、7月上中旬は高温で推移した。開花期は平年並であった。主茎長、主茎節数ならびに分枝数は平年を下回っている。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

8月20日現在：平年並

事由：7月下旬の降雨により倒伏が発生した。主茎長は平年より8.0cm短く、主茎節数および分枝数は平年をやや下回っている。生育量はやや少ないが、着莢数は平年並である。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

9月20日現在：平年並

事由：成熟期は、9月20日時点で到達していない。主茎長は平年より7.2cm短く、主茎節数は平年を下回っているが、分枝数は平年並である。生育量は少ないが、着莢数は平年並である。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

10月20日現在：やや良

事由：成熟期は、平年より1日遅い9月24日であった。分枝数と着莢数は平年並であり、百粒重は平年より1.5g軽い34.5gであったが、屑粒率は平年より低かった。子実重は450kg/10aとやや上回った。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

表4 10月20日の大豆の生育

品 種 名		ユキホマレ		
項 目	年次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	5.18	5.21	△ 3
出芽期	(月.日)	6.01	6.04	△ 3
開花期	(月.日)	7.13	7.13	0
成熟期	(月.日)	9.24	9.23	1
主茎長 (cm)	6月20日	11.3	11.8	▲ 0.5
	7月20日	54.6	61.6	▲ 7.0
	8月20日	60.5	68.5	▲ 8.0
	9月20日	62.0	69.2	▲ 7.2
	成熟期	62.0	69.9	▲ 7.9
主茎 節数 (節)	6月20日	3.5	4.1	▲ 0.6
	7月20日	9.4	10.3	▲ 0.9
	8月20日	9.9	10.5	▲ 0.6
	9月20日	9.6	10.7	▲ 1.1
	成熟期	9.6	10.7	▲ 1.1
分枝数 (本/株)	7月20日	6.4	7.2	▲ 0.8
	8月20日	6.9	7.5	▲ 0.6
	9月20日	6.5	6.4	0.1
	成熟期	6.5	6.2	0.3
着莢数 (個/株)	8月20日	91	94	▲ 3
	9月20日	75	78	▲ 3
	成熟期	75	78	▲ 3
子実重	(kg/10a)	450	428	22
同上	平年比 (%)	105	100	5
百粒重	(g)	34.5	36.0	▲ 1.5
屑粒率	(%)	1.9	3.6	▲ 1.7
検査等級	(等)		2下	-

注1) 平年値は、前7か年中、平成22年、26年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

4) 小 豆 良

6月20日現在：平年並

事由：播種は平年より2日遅い5月25日であり、出芽期も平年より2日遅かった。しかし、5月下旬～6月上旬の適度な降雨により出芽は揃っており、主茎長および本葉数とも平年をわずかに下回る程度であった。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：やや不良

事由：6月下旬の低温で生育が緩慢となり、主茎長は平年を下回った。本葉数はやや少なく、分枝数は平年並であった。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

8月20日現在：やや良

事由：開花期は平年より1日遅かった。主茎長、本葉数、分枝数はいずれも平年並であったが、着莢数は平年よりかなり多かった。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

9月20日現在：やや良

事由：成熟期は平年より12日遅かった。主茎長および着莢数は平年を上回り、主茎節数および分枝数は平年並であった。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

10月20日現在：良

事由：屑粒率は平年よりやや高かったが、百粒重は平年よりかなり重く、子実重は平年比151%とかなり多収であった。

したがって、目下の作況は「良」である。

表5 10月20日の小豆の生育

品 種 名		エリモシヨウズ		
項 目 / 年 次		本年	平年	比較
播種期 (月.日)		5.25	5.23	2
出芽期 (月.日)		6.11	6.09	2
開花期 (月.日)		7.24	7.23	1
成熟期 (月.日)		9.18	9.6	12
主茎長 (cm)	6月20日	3.6	4.5	▲ 0.9
	7月20日	26.4	33.7	▲ 7.3
	8月20日	66.6	65.7	0.9
	成熟期	78.0	68.0	10.0
本葉数 (枚)	6月20日	0.8	1.4	▲ 0.6
	7月20日	8.5	9.4	▲ 0.9
	8月20日	13.4	13.1	0.3
主茎節数 (節)	成熟期	14.9	15.1	▲ 0.2
分枝数 (本/株)	7月20日	5.4	5.8	▲ 0.4
	8月20日	6.6	5.9	0.7
	成熟期	5.8	5.7	0.1
着莢数 (個/株)	8月20日	74	52	22
	成熟期	68	58	10
子実重 (kg/10a)		499	330	169
同上平年比 (%)		151	100	51
百粒重 (g)		14.9	12.7	2.2
屑粒率 (%)		5.2	3.7	1.5
検査等級 (等)			3中	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成22、27年を除く5か年の平均値。
 2) ▲は平年より減を示す。